

令和7年度 学校経営の基本方針

～自他を尊重した愛ある教育～

令和7年4月1日

燕市立吉田中学校

1 令和6年度の成果と課題、令和7年度の方策

学ぶ吉中

【成果】 目指す学力は、最高学年の秋から卒業期にかけて集大成を迎えると考え。

第三学年を数値的にみると高校受験期に向かって学力数値は平均10点上昇している。春先の学力標準検査平均点は51点であり、目標値50とほぼ同じである。

【課題】 長善タイムの取組の改善

【長善タイムでの有効な家庭学習の計画立案についての肯定的評価】

生徒91% 職員82%

【実際の有効な家庭学習についての肯定的評価】 生徒64%

「計画は立てるが実行しきれていない」生徒が多いことがわかる。

【方策】 ・長善タイムの継続的取組

・RS課題の重点実施、職員の共通認識強化

鍛える吉中

【成果】 体力テストにおいて瞬発力において特に顕著な伸びを見せている。

【立ち幅跳び】 1年男子(+10cm) 2年男子(+4cm) 3年男子(+6cm)

女子(+7cm) 女子(+9cm) 女子(+9cm)

また、部活動では全国大会出場、北信越大会出場、県大会出場など素晴らしい成果を収めた。

【体育や部活動で目標達成に向けての挑戦についての肯定的評価】

生徒94%

【課題】 部活動の大改革に向けての、市と連携した取組

【方策】 ・平日の活動休止日追加の検討協議→9月以降実施となる。

・9月以降の土日(吹奏楽部など)の活動は現状の経過を踏まえながら対応する。

心の吉中

【成果】 概ね生徒が安心安全な環境のもと学校生活を送ることができた。

【学校が楽しい】 生徒92% 保護者88%

不登校傾向の生徒や悩みを抱える生徒への対応について速やかで組織的な対応ができた。

【生徒の悩みや相談についての適切な対応についての肯定的評価】 保護者88%

○いじめや人間関係トラブルの指導対応の実際

いじめを含めた人間関係のトラブル101件総てについて即対応指導、現在のところは経過観察も含め、解決・解消に収束している。

○不登校傾向生徒についての実際

4月当初と比較し、状況が前進している生徒の割合

1年生5.3%→2.6% 2年生2.7%→2.5% 3年生8.5%→4.5%

すべての学年にわたって、状況が前進している生徒が増加している。

【仲間へのおもいやりについての肯定的評価】

生徒95% 保護者86% 職員78% (支援や指導が不十分という教師の反省が伺える)

【課題】 より組織的で丁寧な不登校やいじめ対策、学級担任の負担軽減

【方策】 ・学年職員間の密な情報交換(困り感は即情報共有)

2 学校経営の基本的な考え方

「自他を尊重した愛ある教育」を実践していく。「自他」とは学校の主役である「生徒自身」と「教職員」、生徒を支える「保護者」「地域の方々」である。

以下の点を学校経営の基本として、教育活動を推進する。

- 生徒理解のための愛ある指導対応（丁寧な言葉遣い）
- 職員間の温かく、高い同僚性の構築
- 支持的風土に満ちた、安心できる集団の育成（学級、部活動等）
- 生徒の自治的活動への協力・支援（計画・実践・振り返り）
- 丁寧で誠実・迅速な保護者・地域との関わり

3 今の時代を生きる生徒に育みたい資質

- 自他の人権、多様性を尊重する
- 他者と協働しながら、所属意識を高める
- 目標をもって、粘り強く挑戦し、過去の自分を越える
- 根気強く学習に取り組む
- 「西蒲の雄吉中」としての誇りと愛着をもつ

4 教育目標と「目指す生徒の姿」

学ぶ吉中

- (1) 学ぶ習慣を身に付け、自らの学力を高める生徒
- (2) 粘り強く学習に取り組み、思考力・判断力・表現力を伸ばす生徒

鍛える吉中

- (3) 健全な生活習慣を心がけ、心身の発達に努力する生徒
- (4) 仲間とともに、目標に向かって挑戦する生徒

心の吉中

- (5) 人権の尊さを理解し、寛容な心で人間関係を築ける生徒
- (6) 礼儀、感謝の気持ちを大切にし、節度ある言動ができる生徒

5 今年度の重点

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を重視した授業実践を推進する

- ・課題とまとめ、振り返りのある授業、学習規律の確立（学習三原則）、長善タイム等の取組を全校体制で推進する。
- ・「教えること」と「考えさせること」のバランスのとれた単元構成、授業構成を組む。
- ・学び合う学習活動（「目的を明確にした学び合い・話し合い」）を積極的に取り入れる。
- ・市が新たに推進する「読解力向上」に向け、市の研修を核に、授業改善を進める。
*各教科NRT50を達成目標とする。

- (2) 人権尊重の精神に立ち、寛容な心を持ち、周囲に配慮した言動ができる生徒を増やす
 - ・様々な機会や場をとらえ、人権や多様性を尊ぶことの理解を深め、実践力を高める。
 - ・あいさつや礼儀を大切にし、活力と節度ある生活ができる力を高める。
 - ・各種調査、教育相談、情報共有等により生徒理解を深め、組織的、継続的な指導に当たる。
- (3) 自分の目標に向かってチャレンジし続ける生徒を増やす
 - ・チャレンジへの継続、意欲の高まりに向けて、相互評価、形成的評価の充実を図る。
 - ・学級活動、生徒会活動等を通して、自分の力を発揮し、所属する集団に貢献しようとする生徒を育てる。
- (4) コミュニティスクール組織を基軸に、吉中に誇りをもつ生徒を増やす
 - ・仲間と共に高め合う場面を多く設定し、集団への所属感や自己有用感を高める。
 - ・地域と連携した活動を通して、地域や社会に貢献する意識を高める。

6 吉中教職員として＝チーム吉中・吉中プライド・吉中愛

(1) 各自の校務分掌に対する責任感と高い同僚性の構築

授業を基本とするそれぞれの校務分掌を全うする責任感と自覚をもった「吉中教職員」であること。また、困った時、苦しい時に、お互いに支え合える、さりげなく気遣いのできる「吉中教職員」、忌憚なく意見交換し、協働する、よき同僚でありたい。

(2) 教育公務員としての自覚

教職員の姿が、良識ある市民としてのモデルとなる。教育公務員という立場、保護者・地域からの期待を踏まえ、適切かつ丁寧な対応に努め、立ち居振る舞い、言動に十分留意する。

(3) 非違行為の根絶

非違行為は、教育の信頼を根底から崩し、人生の破綻にもつながる。生徒を指導する立場であることを十分自覚し、非違行為に対する高い意識を持ち続けて勤務する。

(4) ワーク・ライフ・バランス

私生活の充実が、充実した勤務生活の基盤となる。個人としての趣味、余暇の楽しみ、家族との時間を大切にしながら、勤務に励む。学校及び個人の働き方改革を進めていく。